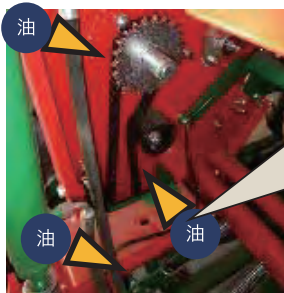


## 5 播種機の調整の実際

### POINT 1 播種機の点検・調整の実施、スリップロスの理解

- (1) 種子の千粒重、比重、容積重は毎年異なるため、種子を過不足とならないためにもは種機の微調整ができることが必須です。
- (2) トラクタ及び播種機の当たり前の清掃・点検・整備の徹底は、シーズン前後2回実施しましょう。
- (3) スリップロスがは種量に与える影響を、肌感覚でもつかみ増減調整を励行しましょう！

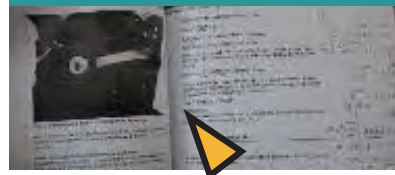


たかがドリルではありません！グリス・オイルUP。  
マニュアルも読みましょう！

● 駆動部分の  
スプロケット  
チェーン・ベアリング  
タイヤ輪軸等  
は確実に注油！！

ドリルのタイヤの  
駆動で種子が落下  
する。スリップ  
することでキャリ  
ブレーションより  
は種量が少なくなる。

● マニュアルは教科書。  
情報盛りだくさん。



〈スリップロス要因〉  
× は種スピード過剰  
× 極端なほ場乾燥  
× タイヤ接地圧不足  
× タイヤ空気圧過剰  
× タイヤ摩耗

〈その他の要因〉  
× マーカー&  
GPSガイダンス  
調整不足



## POINT 2 キャリブレーションの徹底（機種共通事項）

- (1) 複数品種を作付けするときは、品種別の千粒重は知っておくこと。
- (2) 乾籾の水稻種子では、シャッターの開閉位置は中間位置が基本。  
一度決めたらあまり変更しない。  
大きい種子は開ける、小さい種子は閉めるが基本。
- (3) ギヤ調整は少なめ予想で合わせ、少しずつ開きながら合わせる。
- (4) 基準のは種量を決めたら、10%減・5%減・5%増・10%増の前後  
含め5段階の設定も調整し、知っておきましょう。
- (5) マーカーやGPSガイダンスの設定は、正確に測定し設定しよう！
- (6) ほ場間差の苗立差、生育差も感覚で良いので掴んで、調整しましょう！



● 使い切り？現場判断

- 200本/m<sup>2</sup>を苗立目標、苗立率平均 60%の農場  
↓ (大地の星 籾千粒重31.1g) 端数切り捨て

は種時 肌感覚 苗立予想	種子増減 現場判断 !?	後の 苗立 率%	必要 は種 粒数 粒/m <sup>2</sup>	は種量 kg/10a
悪そう	足りない	50	400	12.9
気になる	念のため	55	365	11.7
平均点かな	ピッタリ	60	330	10.6
良さそう	あまるかな	65	310	10.0
バッチリ	播いとこ	70	290	9.3

## POINT

5%、10%の増減調整できることで、品種別、ほ場別に対応できる。

## POINT

端数のない、真角のほ場(1.2haの4角直角等)で実際の量も把握することでより正確には種できる。

## POINT

現行のドリルは小麦・大豆・緑肥等と共用できる。他の作物と共用する場合は、調整作業はより重要◎となる。

**POINT 3** は種の深さは1cm~1.5cmです！



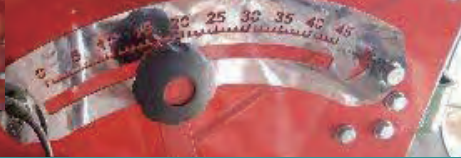
**POINT**

種子を送るロール。  
左：小粒用 右：大粒用  
切り替えできる



**POINT**

変速ギアの調整。  
メモリとは種量をマニュアルに記録を書き  
残し、確実に微調整できるようにしよう！



- 計算式(事例、端数切捨、スリップロス無し)
- ① タイヤ直径、円周率、回転数、作業幅からを面積を算出。  
 $68\text{cm} \times 3.14 \times 20\text{回} \times 3\text{m幅} = 128\text{m}^2$
- ②  $1000\text{m}^2(10\text{a}) \div 128\text{m}^2 = 7.81(\text{係数})$
- ③  $1.16\text{kg}(\text{キャリブ重量}) \times 7.81(\text{係数}) = 9.1\text{kg}$



**POINT**

開閉ゲージ。  
5段階が多い。  
品種ではなく、  
作物で開閉変  
更する。

**POINT**

所有のドリルの係数を算出し、マニュアル  
にメモる。調整の基本と心得る！



前ページの例、10.5kg/10aとするには、もう少し  
ギアのメモリを上げ、根気よく調整することになる。

POINT 4 コンビネーション作業機の特徴と調整のポイント（機種共通事項）

- (1) トップリンクとトラクタのポジションでパワーハローの爪の刺し加減を調整。  
2～5 cm程度は種床に刺さるのがよい。
- (2) は種床（ほ場）の乾燥が不十分の場合は、耕起深度を深くするほど、湿った土が表面に上がり碎土性は低下する。
- (3) すべての調整ができて、望む碎土性を得られない場合は、トラクタの作業速度を減速する。
- (4) 土壌水分が多い場合は、天候によるが、は種床（ほ場）の乾燥を待って行う方が良い。



**POINT**

排土板は下げると土を抱き込む。排土板が効き、土塊が爪で再攪拌と排土版との衝突で、碎土性が向上する。

**POINT**

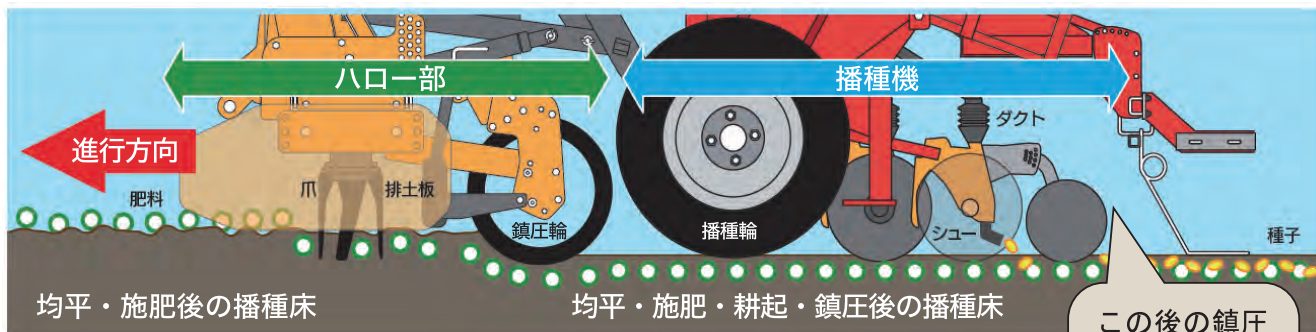
鎮圧輪の上下前後調整し、鎮圧輪を効かせハロー自体のポジションを上下させる。

- パーチカルとは垂直という意味です。縦爪のハローのことをパーチカルハローといいます。通称・商品名はパワーハローと呼んでいます。
- 機種によって、爪の形状、数、硬度が異なりますが、基本的な調整は一緒です。



**POINT**  
PTOの回転を守る！  
調整しても碎土が悪いときは、トラクタを減速する。





この後の鎮圧作業でちょうど1~1.5cm程度のは種深度となる。

＜は種深度の調整＞

- ハロ一部分の昇降により播種機部分も連動して昇降するので、ハロ一部分の再調整を行った場合は、播種機の深度も再調整が必要。
- ハロ一部と播種機を連結している3点ヒッチのトップリンクの伸縮では種深度が調整できる。縮めると進行方向に対して、前傾となりは種深度は浅くなる。
- ダクトの傾斜調整やシューのテンション、昇降など調整をし、は種深度1~1.5cmとなるようにする。

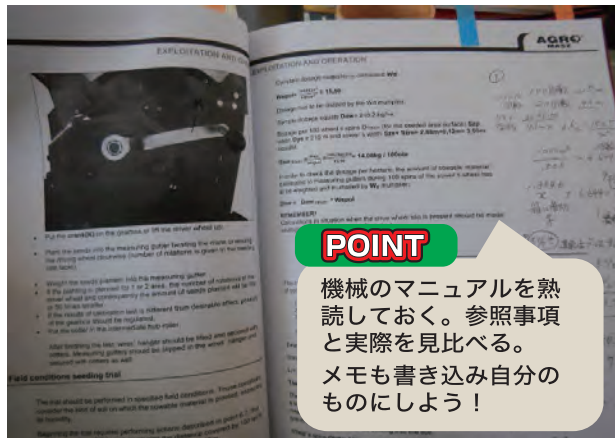


POINT 4 は種作業現場での注意点



POINT

経験を積み、スピーディーには種調整ができるようにしましょう！  
土壌状態の把握に努めよう！

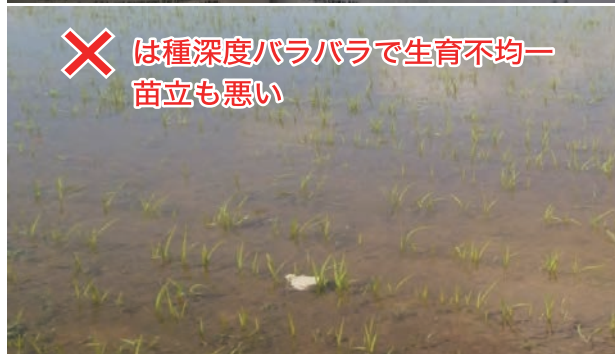


POINT

機械のマニュアルを熟読しておく。参照事項と実際を見比べる。  
メモも書き込み自分のものにしよう！



は種深度バラバラで生育不均一  
苗立も悪い



●ハロー、鎮圧ローラ、播種機は、種類も多く組み合わせも異なります。は種深度と砕土性がベストのコンディションとなるように調整作業を行ってください！